

## 崩壊熱評価 W.G. サブグループ 会合議事録

日 時 昭和 56 年 8 月 7 日 (金) 13:30 ~ 17:10  
場 所 原研東海研究所 研究 2 棟 222 室  
出 席 者 中嶋(法大), 秋山(東大), 吉田(NAIG), 田坂, 井原,  
松本(原研)

### 議 題

#### 1. 学会誌投稿の件

原子力学会誌“私のノートから”に秋山氏が崩壊熱評価の仕事の要約を投稿した。また“談話室”に吉田氏が ANS-meeting 出席に関連した話題を投稿した。

#### 2. 報告書作成について

崩壊熱評価の総合報告書の内容について、田坂氏より構想の説明がありそれについての討論が行われた。瞬時照射と長期照射の両方について計算し、また、fissile のそれぞれの崩壊熱(Decay Power)の fitting 式をどのように作るか、また、中性子捕獲断面積については 25 群断面積でエネルギー依存性を厳密に考慮した時と、RI, 熱中性子断面積だけで計算した時の比較をするなどが話われた。

#### 3. 遅発中性子射出確率の評価について(中嶋)

今回の JNDC ライブラリーでは、田坂ファイルに遅発中性子が考慮されている FP 核種のみについて、射出確率の再評価を試みた。しかし、B-V のために England がサーベイした資料から見ても、遅発中性子射出確率を考慮すべき核種は沢山含まれている。Version-II のためには、その辺の再評価が必要である。

#### 4. 米国とのデータ交換について

JNDCの崩壊熱データおよび中性子断面積データを Hanford および LSRL に送る。検討の結果、断面積データについては1976年の28FP核種と、1978年34FP核種分をまとめて送ることが可能である。崩壊熱データの方は、DCHAINライブラリーの形で、その中の核分裂収率として累積収率を入れたもの、および独立収率を入れたものをそれぞれ別のファイルとして送ることにする。井原，吉田，松本が担当する。

#### 5. その他

- (i) 崩壊熱の $\beta$ ， $\gamma$ スペクトル・データの取扱いについて議論があった。現在のコードでは、1核種あたりの $\gamma$ 線は50本までという制限があるが、M200計算機では、これを200本に増すことはメモリー的に可能である。また、 $\gamma$ 線については線スペクトル、 $\beta$ 線についてはPROFPで計算できるビン構造で良いだろうということになった。
- (ii) 崩壊熱の実験データを、さらに秋山，田坂が収集する。